

2022年3月24日

コロナ禍でのタイの変化 ～バンコク事務所での2年間の駐在を振り返って～

バンコク事務所長 隈本 篤志

1. コロナ禍でのタイの変化

2020年3月にバンコクに赴任して驚かされたことは、コロナ禍における規制の制定・発表、適用までのスピード感が日本と全く違うことであった。3月26日に、プラユット首相が非常事態宣言を発表。その後、タイ政府やバンコク都から各種規制（県境を越える移動の制限、食料品や医薬品以外の商業施設の一時閉鎖、夜間外出禁止令、酒類の販売禁止等）が矢継ぎ早に発表、日常は急速に変化した。

コロナ禍によりタイ経済は2020年に大きく落ち込んだが、製造業などが牽引し2021年のGDPは前年比+1.6%とマイナス成長を脱した。産業の高度化を目指す経済政策タイランド4.0¹の重点分野は、タイ投資委員会が特別恩典を付与するなど、経済の立て直しに取り組んでいる。併せて、バイオ・循環・グリーン（BCG）分野を当面の国家目標に位置付け、この2つの経済政策を両輪としてタイ経済を成長させる方針である。また、タイでは中国の存在感が強まっている。タイとの国境に近い隣国ラオスの首都ビエンチャンまで、中国から接続する高速鉄道が開通した。タイの主要産業である自動車では、上海汽車や長城汽車がタイで製造してシェアを拡大しており、日本車が圧倒していたタイ市場で、中国の自動車を多く見かけるようになった。今後も外資誘致の重点地域である東部経済回廊（EEC）を中心に、中国企業の進出や一帯一路の存在感が増すであろう。

2. タイにおけるビジネスチャンス（バンコク事務所の取り組み）

（1）観光分野

タイの主要産業である観光関連ビジネスは、外国人旅行者が激減して大きなダメージを受けた。ワクチン接種等のコロナ対応が進展した事もあり、経済を立て直すために急速にゼロコロナからウィズコロナに方針転換し、渡航規制の緩和が進められている。今後は日本～タイを渡航する方も徐々に増えるのではないかと見られる。福岡～バンコク間の直行便は約2年間中断しているが、格安航空会社（LCC）「タイ・ベトジェットエア」が国交省の許可を取得し、新規就航準備を進めている。すでに就航してる航空3社の早期再開も待たれる。当事務所は日本航空バンコク支店と共同で、福岡県を紹介するオンライント

¹ 産業の高度化を目指す経済政策。デジタル産業など12の産業分野について重点的に取り組む方針が示されている。

リップイベントを1月に開催するなど、インバウンド再開に向け機運醸成に取り組んでいる。

(2) 環境分野

大気汚染や廃プラスチック等による環境問題は、タイで生活していると日常的に実感する。年末年始の乾季の時期は、大気が霞みがかかった日が続き、目や喉に違和感を持つこともある。プラスチックごみは廃棄時の分別が適切に行われておらず、不法投棄や廃棄場の処理能力を超えた廃プラスチックが海に流出している。本県では、昨年タイ環境省主催の会議において、県職員（環境部）がタイ地方政府職員等約 200 名に対して福岡方式最終処分場についての講演を行うなど環境政策に寄与し、政府等から高く評価されている。

(3) 介護分野

国連による予測では2022年にタイ国民の14%が65歳以上となり高齢社会を迎えると見込まれる。環境問題や高齢化社会は、日本が既に取り組んでいる課題であり、タイで日本が果たせる役割は小さくはないと感じている。本県はバンコク都との友好提携に基づき、2017年から3年間のプロジェクトとして介護予防に取組み、その成果はASEAN加盟国リーダー会議でも報告された。国際貢献による協力だけに留まらず、タイやASEANの社会課題解決をビジネスとして継続的に取り組む事により、双方のメリットとなる関係性を構築できると期待する。

(4) IT分野

タイのデジタル産業は発展途上だが、タイランド4.0において重点分野に位置付けられたこともあり、近年急速にデジタル化に向かっている。知識集約型への産業の高度化を目指すタイでは、高度人材の不足が課題となっており、外国企業との協業が求められている。福岡県では友好提携に基づき、「バンコク都との未来技術分野における青少年交流・育成事業」を行い、両地域の将来を担う技術人材の育成に向けて取り組んでいる。

3. 最後に

タイは大の親日国として知られており、この地での生活を通じてそのことを確信した。日本から輸入された食品や製品は高額でも富裕層をターゲットとして販売される一方、日本企業がタイで生産した日本品質の製品をはじめ、現地企業による日本を模倣した安価な製品も多く見かける。県内企業がビジネスとして成功するには、日本製と現地製を上手く組み合わせ、品質と価格競争力をバランスさせる事が重要であろう。福岡県の今後の発展には、エネルギーあふれるアジアとの交流は欠かせない。バンコクはタイだけではなく地理的にもASEAN各国への拠点であり、今後ますます重要になるであろう。駐在の経験を活かし、帰任後も福岡県とアジアの交流促進に尽力したい。